

「スポーツ少年団の将来」 鹿嶋柔道スポーツ少年団 代表者 仮屋 茂

来年は 2 回目と成る東京オリンピックが開催されます。この時のレガシーとして生まれたスポーツ少年団は全国津々浦々まで広く普及され各地域でなくてはならない青少年育成の団体として活躍しております。しかしこの 50 数年の時代の移り変わりの中で取り巻く環境は大きく様変わりして来ました。家庭、学校、地域、そして社会の有り様も大きく変化しその活動内容もいろいろな問題、課題を抱えて来ております。創設時からドイツのスポーツクラブ方式をモデルにして今日の日本社会が抱える諸課題を乗り越えるための願望が意図されていたにも拘わらず皮肉な事に日本社会の経済事情から行財政改革の名のもとにこれらをもろに受けて頓挫した状況となってしまいました。全国どこでも市町村の教育長が本部長となりその本来の理念を実現する形がいつの間にか我々現場の指導者がそれに代わる事となり、一方学校の先生方も指導者として現場に立ち一般の指導者と地域を繋ぐ役割を兼ねて非常に好ましい環境が出来ていたのにここもいつの間にか一斉に手を引くと言う信じられない現象が起こったのでした。これで日本スポーツ少年団の当初の描きは脆くも崩れ去ってしまったのです。これは歴史的大きな損出となりこれが今も尾を引いてきております。少年団の理念とする諸々の事業や運営が狂い本来の目指す方向と大きく離れて来ると言う悲しい現実があります。ところが回りまわって現在の学校、家庭、地域社会の変り様と抱える課題解決のその必然性を考えるとスポーツ少年団の存在がとても大きな要素を持つと言う事が明確になってきているのです。3 歳児が入団出来る事や中学校の部活動がこれまでのように出来ない事情が多々出て来ました。先生方の負荷が大で働き改革の必要性から部活動は地域のクラブへと大きく方向転換せざるを得ない状況に追い込まれています。又別な世界の視野で人生 100 歳時代となった高齢者の生き方は健康志向が強まりスポーツ活動する事が必然の様相を呈してきております。家庭では共働きが当然の時代で親が家庭で子どもを見る頻度は極端に減少してこれを誰がどういう形で面倒を見るのかとなると 3 歳児の頃から小学生、そして中学生や高校生に至る迄地域のスポーツクラブで健全に育成されることが国の施策で行われると言う時代になると言う事なのです。これがドイツのクラブ方式でありここが新しい地域のコミュニティを形成しこれが日本のこれからの地域づくり国づくりを成す事になるのです。従ってこれを支えるキーパーソンとなる指導者が非常に重要な役割を担う立場となります。この面でもその役割を担うために指導者資格制度が 2020 年度から大きく変わります。こうしてスポーツ文化の担い手としてスポーツ指導者が社会の重要な役割を担いそこには当然それに見合う謝金が生れて来る環境が考えられます。従って次のオリンピック開催でこういう社会が進行してスポーツ少年団の第 2 のレガシーが出来上がり歴史的な役割を担う事になるはずであります。グローバル化は何も経済問題だけでなく我々の身近な日常のスポーツ少年団の活動に込められているのです。これがスポーツ少年団の大きな特徴であるドイツとの相互交流活動なのです。こうして考えると日本社会が混乱するほどに結局はドイツをモデルとしたスポーツ少年団の時代に限りなく近づき事になるものと思います。これは決して初夢でなく正夢なのです。

この武道の街と言われる鹿嶋の子供たちの柔道指導を始めてからやがて47年近くの長い活動になりますが最近の日本社会、そして地域社会の変わりようにはただ驚くばかりです。勿論 50年先を見越してスポーツ少年団の素晴らしい理念の実践活動が始まったのですがこうも難しい社会変化は想定外の事であったと思います。私も初めの頃地域の小さな私たちの単位団活動がドイツを主にした国際交流活動を通して世界平和に繋がると言うとても考えられないスケールの大きさに衝撃を受けたものでした。しかしいろんな学びを受けてドイツ、フランス、イギリスのスポーツ視察研修に出掛けた事はその後の私のスポーツ観、人生観を根底から覆す大きな契機になりました。“同じ地球上に住む人間社会でこんな生き方、暮らし方、人生が有るのだ”という非日常の世界の凄さに大変な刺激を受けて以来この世界各国との柔道に依る相互国際交流活動はもう80回近くになりました。これは今も毎年の定例行事になり多くの団員、指導者が国際理解を深める絶好の機会になっております。昨年はドイツからの団体の受け入れと若者や個人の訪問も有りました。ホームステイの受け入れもみんなが楽しみに待っているようになりました。グローバル化の重要性が言われる中で“国際化教育に柔道は最適、最高”を実践、実感しております。ヨーロッパではスポーツクラブが地域のコミュニティを作り出す最適な場所になり幼児から高齢者に至るまで各自が住む身近な場所で日々仲間と出会い楽しい日常を作り出しているのです。市民が自らの力で自主的に運営活動しながら地域の自治活動を創出しているのでそこに我が街としての誇りが生れ愛郷無限の郷土愛も自然な形で作られると言われております。市町村合併や過疎地が問題になっている日本の現状を比較して見ると信じられない世界が有ります。しかし決してこれは他人事ではありません。こういう現実が存在する事を考えるとこれから先の地域の有り方を創造する大きなヒントになります。

近い将来日本でもスポーツクラブが 地域コミュニティを作り新しい形態の家庭、学校、地域の関係を構築する事が予想されます。この事はそう遠くない時期に必然的な流れが生まれて来ると思われます。スポーツ少年団の長い間の取り組みの実践活動がこれら社会の流れの中で自然な形でそれを実現する日が来るものと思います。それが2020年のオリンピックを機にしてスポーツ少年団の第2のレガシーを作ることになる事を期待しております。今年もスポーツ活動は人々の日常生活の中で気晴らし、息抜きの効用を発揮して健康で豊かな人生を築くための最高の文化となるよう精進したいと思います。



5.26.2018



1.13.2019